

公益事業の効果報告書

実施者 (団体名)	建設フェスタ実行委員会
実施事業名	建設フェスタ2015
実施目的	次代を担う子どもたちやその保護者を対象として、一般の県民向けに集客性の高いイベントを開催し、生活・社会基盤の整備を担う建設事業に対する理解と建設産業への魅力を正しく理解してもらうことを目的に開催する。
実施場所	笠松運動公園 特設会場（茨城県ひたちなか市佐和2197-28）
実施日 (期間)	平成27年11月8日（日）
参加人員	12,000人
実施内容	<p>国土交通省関東地方整備局やNEXCO東日本、茨城県土木部では、災害対策車の展示やパネルの展示、パンフレットを配布するなど、いばらきのまちづくりなどを紹介した。</p> <p>業界各団体では、建設機械の体験コーナー、建設や環境に関する物づくり体験コーナー、ゲームコーナーなどを催した。</p> <p>メインステージでは、親子競演丸田切り大会や測量・木工作体験、消波ブロック作りの体験作業、模擬上棟式などを開催した。</p> <p>その他にも、建設フェスタのなかで例年実施している、県内各市町村の小・中学校より集められた「建設現場の風景」を描いた絵画作品の表彰式を行った。また、社会貢献活動の一環として昨年度より実施している、「チャリティーバザー」について、本年度も行い、その収益を各福祉団体等へ寄付した。</p>
事業の告知媒体 (告知方法)	テレビ（NHK）、ラジオ、チラシ（新聞折込、県内全小学生及び一部の幼稚園・保育園）、各団体のホームページ、県が管理するインターネットTV、業界広報紙、県報、市町村報、新聞等による告知
実施効果	<p>建設フェスタは、茨城県内の公共団体や建設産業に関連する各種団体が一体となって、県民の暮らしや経済活動に不可欠な社会資本整備の重要性と必要性また建設産業の魅力を広く県民に伝えることを目的とし開催しているイベントであり、平成6年より始まり本年度で第22回目を迎えた。本年度は、スタート時から天候不良に苛まれ会場内の足元の悪い中、12,000人（昨年度比-500人）の来場者があり、リピーター等を含め毎年安定した来場者があり、地域における大規模なイベントとして定着していると感じる。</p> <p>今回はチラシを例年より多めに配布したことで、「毎年楽しみにしている」リピーターに加え新規来場者が増えたということが言えるかもしれない。</p> <p>アンケートの結果、チラシをきっかけに会場を訪れた人は学校配布と新聞折込を合わせて60.53%を占めていた。</p> <p>また、子供を建設業に「従事させたい理由」を問う質問を新たに加えたことで、人々が建設業に感じる魅力という部分を引き出した。「巨大な施設」「地図に残るような仕事」を子供にも「させてみたい」という方が34.86%を占めたことは特筆すべきである。このようにプラスイメージを喚起していくことは、今後の広報の目標の一つになるのではないだろうか。巻末の「建設業界に望むこと」として「女性進出」が挙げられたが、人手不足の折、これも明るい側面として広報で取り上げていくべきと感じる。</p> <p>来場者が望む公共事業として、「地震・洪水・災害対策」が24.3%に上り、常総市における堤防決壊と家屋倒壊・流出という災害が念頭にあったと思われる。対策の一翼を担う当業界として銘記すべきことである。</p> <p>建設業界のイメージについて、「建設業に従事してみたいですか」と親や未婚者の心情を問う新たな質問を加えた。「してみたい」が20.4%、という回答になっている。これに対して「お子さんに従事させたいか」については「させたい」が33.9%、である。親として「仕事が大変」など、従来の建設業界のイメージを引きずっているのではないか。あるいは、19歳から29歳という層だけに、子供が幼いか、あるいはいないために、具体的な像を結ばないのではないかと感じる。このあたり、従来のイメージを払拭し、建設の魅力をもっと伝えるという点で広報の役割はさらに重要になると思われた。</p>



実行委員長挨拶



丸田切り大会



建設体験リレー



建設機械操作体験

実施状況



建設機械体験



建設機械操作体験



絵画表彰式



ミニ上棟式